

55年 2月21日
57年 2月改訂

Edgewise Society in Kyushu 会則

名 称; Edgewise Society in Kyushu (略称ESK) とする。

目 的; 歯科矯正治療のレベルを高め、治療技術の向上をめざす。

I 入会資格

イ) 準会員

1. 臨床歯科矯正医であって、自から治療行為を行っていること。

治療法はエッヂワイズ装置とする。

1. 現会員の推薦により、以下に述べる資格を満足する人とする。

(1) 5年以上の歯科矯正臨床経験を有する。

(2) この間に治療した完了例5例を提出し、現会員過半数の賛意を得ること。

但し、この提示例はESKのCase presentation form に準拠すること。
(Case presentation formは別に定める。)

II 会 員

イ) 会員数; 正、準会員を合わせ、15名を当面の限度とする。

ロ) 正会員取得資格:

1. 準会員になった後、5年内に完了例5例を審査委員会に提出し、その昇格承認を得ること。但し、提示例はESKのCase presentation formに拠っていること。

ハ) 会員の義務

1. 正、準会員共に、年間3例以上の治療例を提出報告すること。

他に不満足な症例を1例提出し、検討資料とする。

2. 準会員となった後、5年内に最初の昇格審査を受けなければならない。

期間以内にこの条件を満たせない場合には、審査を受ける意志と時期を明確にしておくこと。

3. 定められた会費を納めること。

4. 正、準会員とも、例会への出席の義務を負う。

III 会 費

イ) 年間に12万円、および会合時の実費

年会費は積立てを行ない、名誉顧問の招聘および行事費に充てる。

IV 会 合

会合は原則として隔月に一回これを行ない、定例会合は第2木曜日とする。

Edgewise Society in Kyushu 入会審査 Presentation Form

(By Dr. H. Suyehiro) .

1. ケース数;

5 Cases とする。

Case は失敗例でも可。但し、その失敗の原因等に対するreport、あるいはcomment を付すること。

2. 提出資料;

1) 初診時資料 I.R. (Initial Record)

- (1) 模型 (Cast) 平行模型又は顎態模型
- (2) 顔面写真 (FP) 3枚=正面、45°、側面Print
- (3) レントゲンセファロ (LX)
- (4) 齒牙レントゲン (PX or DX)
- (5) 口腔内写真 (IOP) 6枚
- (6) 診断、治療方針についての具体的なreport

2) 中途経過資料 P.R. (Progressive Record)

- イ. 2カ月に1回のIOP (3枚)
- ロ. 1年に1回のFull Record (I.R. と同じ)
及びそのcomment

3) 最終資料 F.R. (Final Record)

- イ. I.R. と同じ
- ロ. Treatment evaluation, Retention type を記載する。。。

※After retention については不問

1. 顔面写真
 - (1) 品質
 2. 口腔内写真
 - (2) 品質
 3. 口腔内X線写真
 - (3) 品質
 4. 頭部X線規格写真
 - (4) 品質
 - (5) トレーシング
 5. 模型
 - (6) 品質
 6. 治療方針の妥当性
 - (7) 抜去等
 - (8) 治療開始時期
 - (9) Mechanics
 7. 難易度の評価
 - (10) 自己申告
 8. 治療期間
 - (11) 平均的である
 9. 治療結果の評価
 - 顔面写真
 - (12) 顔貌の変化
 - 口腔内X線写真
 - (13) 根平行性
 - (14) 病理変化
 - 頭部X線規格写真及びトレーシング
 - (15) SN 重ね合わせ (S)
 - (16) 上顎 (ANS)
 - (17) 下顎 (M)
 - (18) 軟組織
 - 口腔内写真
 - (19) Oral hygiene
 - 模型
 - (20) Overjet, Overbite
 - (21) Midline
 - (22) 側方歯群の咬合
 - (23) 上・下顎犬歯間幅径
及び大臼歯間幅径
 - (24) Detailing
 - (25) ?

症例評価基準

1. 顔面写真

品 質：顔貌の変化を明瞭に確認できる寸法と画質であること。（1）
(寸法はサービスサイズくらいとする)

2. 口腔内写真

品 質：各歯牙、及びその咬合状態を明瞭に確認できること。（2）

3. 口腔内X線写真

品 質：各歯牙の状態が明瞭に確認できること。（3）

4. 頭部X線規格写真及びトレーシング

品 質：硬軟両組織を明確に計測、診断できる画質であること。（4）
トレーシングは診断に必要な計側点が正確に描写されていること。
(5)

5. 模型

品 質：解剖学的な形態を忠実に再現していること。
模型はトリム及びスムースな表面処理がしてあること。（6）

6. 治療方針の妥当性

抜去、非抜去適否。抜去部位の適否（7）
治療開始時期（8）
Mechanics の妥当性（9）

7. 難易度の評価

難易度の自己評価を行ない申告する。（10）
患者の生体上のfactor（顎関係、歯牙deformity、排列度、その他）
患者の協力度、社会的要因等について考慮を払い、症例の難易度を自己評
価し申告する。この項目の得点については、提出者と審査者が討議の上
決定する。

8. 治療期間

平均的な治療期間であること。（11）

9. 治療結果の評価

(1) 顔面写真

顔貌の変化；顔貌が治療によって改善されていること。（12）

(2) 口腔内X線写真

根平行性；治療後の歯根が平行であること。（13）

病理変化；明らかに治療による変化を起していないこと。又、歯根吸収がないことを理想とする。(14)

(3) 頭部X線規格写真及トレーシング

○S 点基点によるSN重ね合わせ；・上・下顎の治療前後の変化をcheckする。治療方針に沿った変化が起きていなければならぬ。(15)

○ANS基点によるpalatal plane 重ね合わせ；上顎前歯及び上顎大臼歯の移動をcheckする。治療方針に沿った変化が起きていること。(16)

○Menton基点による下顎下縁平面重ね合わせ；下顎前歯及び大臼歯の移動をcheckする。治療方針に沿った変化が起きていること。下顎前歯歯根は唇舌側 cortical bone の中間に位置すること。(17)

○側貌軟組織；治療による改善がなされていること。(18)

(4) 口腔内写真

歯肉、Caries 等 Oral hygiene が Control されていること。(19)

(5) 模型

○Overjet, Overbite；終了直後の Overjet, Overbite は正常、又はやゝ Overtreatment されていること。(20)

○Midline；上下歯列の Midline は一致すること。(21)

○側方歯群の咬合；側方歯群は咬合平面に直角であること。(22)

但し、Anchorage control のための歯牙の傾斜は許される。又、原則として I 級の咬合を有すること。即ち、上顎第二小白歯は、下顎第二小白歯及び第一大臼歯の間に咬合する。上顎第一大臼歯の近心頬側咬頭頂は下顎第一大臼歯の頬側面溝と咬合する。

○上・下顎犬歯間幅径及び大臼歯間幅径；理想的には治療前の犬歯間幅径及び大臼歯間幅径が維持されていることが望ましい。(23)

○細部仕上げ (Detailing)；細部の仕上げには、捻転の control、歯軸の control、上顎前歯の近遠心的傾斜等が含まれている。(24)

○(25) は？ Retention (ホル.)